

修士(国際開発学)ディプロマポリシー 国際開発学プログラム

修士(国際開発学)の学位課程における学修目標は、理論的かつ実践的なカリキュラムを提供することにより、国際開発分野で高度な知識と技能を持ち、グローバル社会における将来のリーダーを育成することである。本プログラムは経済学、公共経営、国際関係に焦点を当てた学際的な教育を通じて、幅広い知識と専門的技術を持つ政策の専門家を養成する。

国際大学学則で規定されている本学の目的と国際関係学研究科の教育研究上の目的を達成するために、国際開発学プログラム(IDP)は修士(国際開発学)の学位を取得するために必要な修了要件と学修目標を次のとおり定める。

〈課程修了の要件〉

在学期間に関する要件

学生は、修士課程に2年(6学期間)以上在学しなければならない。ただし、優れた業績を上げた者については、在学期間に関し、1年以上の在学にて、修業年限を満たしたものと認める場合がある。

授業科目の履修及び修了に必要な単位数に関する要件

学生は、IDPで指定された履修要件に従って、指定必修科目、選択必修科目および自由選択科目を履修し、必要な単位数を取得しなければならない。修了に必要な単位数は、修士論文を提出する場合は合計40単位以上、研究レポートを提出する場合は合計44単位以上とする。

単位認定

コースシラバスに明記された評価項目について審査したうえで、最終評価スコアが100点満点中60点以上であった学生に単位を与える。

修士論文/研究レポートの提出に関する要件

学生は、指導教員の指導の下で、審査基準を満たす修士論文または研究レポートを完成させ、期限までに提出しなければならない。

最終試験の要件

修士論文を選択した学生は、審査委員会が口頭により行う最終試験に合格しなければならない。

研究レポートを選択した学生は、審査委員会が決定した実施方法により行われる最終試験に合格しなければならない。

GPAの要件

学生は最終学期の成績が確定した段階で、少なくとも2.5ポイント(4.0ポイント中)以上のGPAを取得していなければならない。

<学修目標>

修士(国際開発学)の学位課程では、以下のスキル、知識、学術的態度の修得を学位授与の条件とする。

知識

- 経済学、公共経営学、国際関係学における高度な知識
- 地域、国およびグローバルなレベルでの開発問題を識別する能力
- 習得した知識を応用して開発問題を分析する能力
- 開発問題に対する実現可能な解決策を導き出す能力
- 政策策定に影響力のある政策担当者に経済改革の主要内容を分かりやすく簡潔に伝える能力

スキル

- 地域、国およびグローバルなレベルでの価値観や制度の多様性を適切に理解し、開発のための実践的リーダーとして行動する能力
- 経済学、公共経営学および国際関係学の理論を援用し、開発問題を適切に分析する能力
- 詳細な分析を通じて開発問題に対する実現可能な解決策を導き出す能力
- 現実の経済改革を推進するため、政策担当者、アカデミア、市民団体を含むすべての利害関係者と連携し、改革の主要内容を分かりやすく簡潔に伝えることができる能力
- 開発の専門家としての視野を広げるため、他分野の専門性を尊重し、学際的なチームで働くことができる能力

学術的態度

- 開発問題を論理的かつ創造的に考察する情熱とイニシアティブ
- 常に最新の研究動向を理解し、高い分析能力を維持する姿勢
- 現実の経済改革に貢献するという強い心構え
- 他分野の専門性を尊重する態度
- 開発の現場での多様な価値観や制度を尊重する姿勢